

展覧会紹介：第34回日本伝統漆芸展 輪島展	2
展覧会紹介：テーマ展「花と蝶 —いのちの歓び—」	3
漆の小箱 20「職人と道具—漆刷毛②—」	4
ビジュアル新書『企画展がなくても楽しめるすごい美術館』、 沖縄・浦添市美術館友の会と20年ぶりの交流	5
INFORMATION	6



第34回日本伝統漆芸展 輪島展

会期 2017年1月28日(土)～2月20日(月)まで *会期中無休

日本を代表する工芸として、永い歴史をもつ漆芸。日本伝統漆芸展は伝統の継承とその錬磨、現代への応用を目的として毎年開かれています。第34回を迎える今年度は、受賞作7点を含めた全91点を展示いたします。栄えある受賞者のうち、4名を30代が占めました。ここでは、今後いつそうの活躍が注目される若手の作品をご紹介します。

表紙の写真は文部科学大臣賞を受賞した河村岳大氏の《乾漆朱塗合子》です。らせん状にあらわれる面のそれぞれに、朱漆の艶がやわらかな陰影を与えています。なだらかな稜線が親しみやすい形状を作り上げる一方で、正確な成形や、曇りなく磨き上げられた内側や蓋裏は、厳格さをも感じさせます。

輪島漆芸美術館賞を受賞した村谷聡志氏の《乾漆盛器「風の韻」》(写真1)は、乾漆技法の造形性を最大限に活かした作品です。器物のシルエットには曲線を取り入れ、水や風の軽やかな流れを連想させています。また、長手方向に表されたレリーフ状のわずかな段差が、慎重な塗りによって際立てられ、心地よいリズムを刻んでいます。



(写真1) 乾漆盛器「風の韻」/村谷聡志
輪島漆芸美術館賞

初入選・日本伝統漆芸展新人賞受賞の室瀬智弥氏による《乾漆箱「とばりの気配」》(写真2)は、真冬の夕暮れの景色が描かれた作品です。昼夜の狭間の静寂と透明感、大地の生命感といった雄大なモチーフを伝統技法によって表現する感覚は必見です。葉を落としたり木々に白蝶貝の薄貝を、背景には金平目粉



(写真2)
漆箱「とばりの気配」/室瀬智弥
日本伝統漆芸展新人賞

と丸粉を用いています。

重鎮から新進までがしのぎを削り、高い技術と芸術性を示し続ける本展覧会は、後継者の育成にも大きな役割を果たしてきました。日本の漆芸界を牽引する輪島での開催を通して、多くの方にご覧いただければ幸いです。

(寺尾藍子)

列品解説のご案内

会期中下記出品者による展示作品の解説を行います。

- 1月29日(日) 西 勝廣氏(鑑審査委員)
- 2月5日(日) 市島桜魚氏(鑑審査委員)
- 2月12日(日) 寺西松太氏(特待者)
- 2月19日(日) 小森邦衛氏

(重要無形文化財保持者)

いずれも13時30分開始 *入館券が必要です

テーマ展 「花と蝶 ―いのちの歓び―」

会期 2017年2月25日(土)～5月15日(月) まで *会期中無休

長い冬が終わると、花々が咲き誇り蝶が舞い飛ぶ、希望にあふれる季節が訪れます。本展覧会では、命芽吹く春を連想させる花や、魂の象徴とされる蝶をモチーフにした漆芸作品をご紹介します。

蝶は古来から漆芸品のモチーフとして用いられ、かの有名な正倉院宝物の漆胡瓶にも蝶が描かれています。同じ蝶のモチーフでも、さまざまな技法や材料を使用することで、表現が大きく異なってきます。

本展覧会の出品作品をご紹介します。



青漆塗草花蝶々菓子重／池田泰真
明治初期

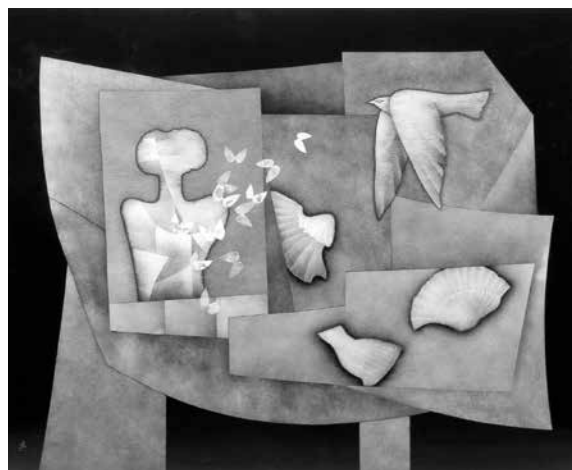
「青漆塗草花蝶々菓子重」(左上写真)は、明治を代表する蒔絵師・池田泰真の作です。重の側面に春夏秋冬それぞれの草花を配し、蓋表に極めて緻密な蒔絵で蝶を表現しています。蝶の羽根の模様や、脚や触覚、螺旋状に巻いた口の管に至るまで細かく描写しています。



野の花蒔絵平棗／寺井直次
昭和60年

重要無形文化財「蒔絵」保持者であった寺井直次は、卵殻技法を用いた純白の表現を得意としました。「野の花蒔絵平棗」(右写真)は、甲面に卵殻で蝶を繊細に描き、胴に蒔絵を用いて野の花を巡らせて、春の陽気を感じさせ

る作品になっています。



「人・鳥・貝」／三谷吾一
平成3年第23回日展

「人・鳥・貝」(右写真)は、文化功労者・日本芸術院会員である三谷吾一作の平面作品です。モチーフである人や貝の周囲に小さな蝶の群れが配置され、画面に変化を与えています。独特の淡い色調と、きらめきながら飛び交う蝶の表現とが組み合わせさり、幻想的な世界観に仕上がっています。

古今東西、蝶は人の魂や生命に関わる存在と考えられてきました。ひらひらと舞い飛ぶ華麗な姿に霊的存在を見出し、蝶の図案には特別な祈りを込めて描いたのかもしれませんが、華やかで歓びにあふれた表現をどうぞお楽しみください。
(竹村祥子)

漆の小箱 20

職人と道具 ― 漆刷毛 ② ―

「漆芸美術館だより」70号で、漆塗りに用いる「漆刷毛」という道具についてご紹介しました。漆刷毛は、漆を塗るための道具で、人の毛髪と木材を組み合わせて作られています。毛先に漆を含ませ、器物に塗りつけるというシンプルな用途の道具ですが、人や地域によって使用法が異なることが最近の調査で分かってきました。



漆刷毛を用いた漆塗りの様子

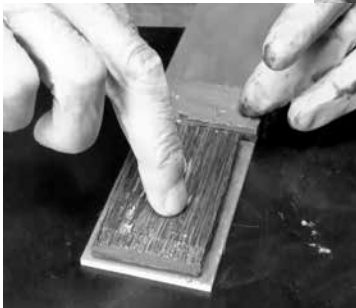
輪島塗（石川県輪島市）、山中漆器（石川県加賀市）、越前漆器（福井県鯖江市）の3つの産地で職人や作家の工房調査を行うと、漆刷毛に様々な工夫が見受けられました。

まずは、漆刷毛の見た目にその差が現れています。輪島塗では毛足の長い刷毛が好まれる傾向にあり、他産地の平均が3〜4分（約9〜12ミリ）であるのに対し、輪島塗では4〜5分（約12〜15ミリ）の長さで仕立てています。これは使用する漆液の粘度と関係があると考えられます。

また、輪島塗と越前漆器では、一本の漆刷毛を分割して複数本の刷毛に仕立て直す加工が行なわれています。この加工は、販売されている漆刷毛のサイズの種類が少なかった時代に編み出されたようです。同じ石川県内で



漆刷毛の木材を鉋で削って剥がし、人毛だけの状態にする様子（越前漆器）



切断した人毛の芯を木材に貼り直している様子（輪島塗）

も、山中漆器産地ではこの加工がほとんど行われていないことが興味深い点です。この加工は、使用者が自分で行うこともあれば、木工所などに依頼している場合もあります。手順としては、漆刷毛を切断し、持ち手の木材を剥がして芯（人毛）だけの状態にし、また別の木材を貼り直すという作業を行います（左上写真参照）。

この他にも、漆を塗る時に刷毛を動かす方向や構え方など、細かな差がたくさんあります。各々の産地の特徴は、その土地に適した製品を作っているうちに確立されたり、他産地から導入した形跡もあります。

近年では、材料や道具類の流通や情報伝達の色度が高まり、全国の産地で材料や道具の均質化が進んでいます。前述の漆刷毛の分割も、若年層はほとんど行っていません。漆刷毛などの製作道具は、使用者の思いが顕著に反映されており、ものづくりの本質を語る存在と言えるのではないのでしょうか。長い時間をかけて地域ごとに確立されてきた手法やこだわりといったものが、道具を通じて次世代にも受け継がれていくことを願っています。

調査の詳細は当館「紀要12号」に掲載します。ぜひご一読ください。（竹村祥子）

ヴィジュアル新書

『企画展がなくても楽しめる』

すごい美術館

ヴィジュアル新書『企画展がなくても楽しめるすごい美術館』（藤田令伊著、KKベストセラーズ、2016）に、石川県から21世紀美術館と当館が紹介されました！日本全国に1000以上あると言われる美術館から、厳選された「企画展がなくても楽しめる」美術館として60館が紹介されています。



近年では有名作家・作品を集めた大型企画展が大盛況ですが、待ち時間が長く、混雑した会場に疲れてしまうことがままあります。しかし、美術館の魅力というのは、企画展だけではありません。常設展に見応えがあったり、美術館の建築や庭園などが見どころになっていたり、さまざまな楽しみ方があると

いうことを本書では提案しています。

当館は「スペシヤルな個性が際立つ美術館」に分類されています。常設展に古今の漆芸家による名品が展示されていることや、輪島塗のわかりやすい製作工程の説明があることが選出のポイントのようです。

当館が漆文化の発信基地として活動してきたことを高く評価していただき、光栄に思います。ご来館いただいたお客様にご満足いただけるよう、今後も尽力していきたいと思えます。

沖縄・浦添市美術館友の会と

20年ぶりの交流

浦添市美術館とは平成4年に友好締結。平成8年の当館開館5周年の折に、友の会の皆さんが来館され、華麗な琉球舞踊をご披露いただきました。以後友の会としての交流は跡絶えておりましたが、今般当館開館25周年を機に、浦添市美術館を訪問し、20年ぶりに友の会同志の交流を深めることができました。訪問に際しては宮里館長・運天友の会理事長はじめ、多くの関係者の皆様の心温まる歓迎をいただきました。

交流会では浦添市美術館友の会の方による、



三線の披露、方言朗読などが催され、当館友の会からも「輪島朝市音頭」を踊り、終始楽しく語り合う事ができましたことは、何よりの喜びです。今後、研修、交流の成果を、両館発展のために大いに役立て、漆文化のすそ野を広げる交流を更に深める事が出来ますよう、努力して参りたいと思います。

（高森泰子）

INFORMATION

セミナー

- 🍷 **新春を寿ぐおもてなし**
 日時：2017年1月1日(日・祝)～1月3日(火)
 ・わんじまのお年賀プレゼント *要入館券
 ・新春ゲームコーナー *入場無料
 ・新春福袋販売(限定30個、売切れ次第終了) 2,000円
- 🍷 **鬼わんじまぬりえ展**
 日時：2017年1月29日(日)～2月12日(日)
 会場：エントランスホール *入場無料
- 🍷 **メモリアルパネル展**
 輪島市内小学校6年生170名が制作した沈金パネルを展示します。
 日時：2017年2月4日(土)～12日(日)
 会場：講義室 *入場無料
- 🍷 **輪島あえの風冬まつり協賛**
 日時：2017年2月11日(土・祝)～19日(日)は協賛特別料金
- 🍷 **沈金・蒔絵の実演～職人の技にふれてみよう～**
 日時：2017年2月11日(土・祝)・12日(日) ※観覧無料
- 🍷 **「水ようかん」のおもてなし**
 輪島塗の器でお茶とともにお召し上がりいただけます。
 日時：2017年2月18日(土)・19日(日) *1日60名様限定、要入館券
- 🍷 **友の会主催 木工ワークショップ**
 日時：2017年2月25日(土)
 会場：講義室 *要材料費
- 🍷 **能登仁行和紙展**
 日時：2017年3月18日(土)～26日(日)
 会場：エントランスホール *入場無料
 お問い合わせ 0768-22-9788
 いずれも詳細が決まり次第当館HPやチラシ等でお知らせします。



TOPICS

もうひとつのLEDイルミネーション「かがやきナイトミュージアム」



会期
 2017年3月12日(日)まで
 日没から約3時間
 見ごろは19:00～20:00

会場
 輪島市漆の里広場
 (当美術館隣接)

*観覧料無料
 無料駐車場あり

当館隣接の輪島市漆の里広場において6,000個の太陽光発電LEDランプを敷き詰めた「かがやきナイトミュージアム」が始まりました。

4シーズン目となる今回のテーマは「ネクスト25 幸せの四つ葉のクローバー」です。会場内に、四つ葉のクローバーの小道を作り、訪れた皆さまが歩いて楽しんでいただけるような配置にしました。白米千枚田で開催されている「あぜのきらめき」と共にお楽しみください。

休館日

2016/12/29(木)～12/31(土) 年末休館
 2017/ 1/16(月)～1/27(金) 展示替え・館内整備のため休館
 2017/ 2/21(火)～2/24(金) 展示替えのため休館



『漆芸美術館だより』第79号
 2016年(平成28)12月26日

編集・発行 石川県輪島漆芸美術館
 〒928-0063 石川県輪島市水守町四十苅11番地
 TEL.0768-22-9788 FAX.0768-22-9789
<http://www.city.wajima.ishikawa.jp/art/>